

家庭教育実践事業

『子育てアツプ』チャレンジプラン

～子どもが変わる、おとなが変わる、家庭も変わる～

平成19年度 実践報告書



春日市教育委員会

目 次

はじめに	1
【Ⅰ 総論 『子育てアップ』 チャレンジプランとは】	
1 春日市が本プランを導入した理由	2
(1) 知識から実践へ（「知っている」から「している」へ）	(2)
(2) 家庭教育はすべての教育の基盤	(2)
2 本プランが設定したプログラム（内容）とは	3
(1) 本プランが目指していること	(3)
① 子どもには「生活習慣定着」と「自立心育成」を	(3)
② 親（保護者）には子育て力（家庭教育力）の向上を	(4)
(2) そのために、どんなプログラムを設けたか	(5)
① 基本メニュー	(5)
② チャレンジメニュー	(5)
(3) どんな実施を展開したか	(5)
① 提供の対象は小学校3年生家庭	(5)
② 実践期間は6箇月間	(6)
3 平成19年度 プラン実践結果の概要	6
(1) 実践結果の報告件数は延べ2,494件	(6)
(2) 各メニューの実践率は	(7)
(3) 保護者の評価は「効果あり」	(7)
【Ⅱ 各論】	
1 プラン参加状況	8
2 各メニューの考察	9
(1) 基本メニュー	(9)
① 早寝	(9)
② 早起き	(9)
③ 朝ごはん	(10)
④ おはよう	(11)
⑤ おやすみ	(11)
⑥ ありがとう	(11)
(2) チャレンジメニュー	(12)
① 毎日すること	(12)
② 毎週すること	(18)
③ 毎月すること	(20)
3 家庭教育力の考察	22
(1) 子どもに接する力	(23)
(2) 子どもに対するしつけの力	(23)
(3) 子どもの価値観を育てる力	(24)
(4) 親としての自己研鑽力	(25)
4 成果と課題	26
(1) 成果	(27)
(2) 課題	(27)
(3) 実践成功のポイント	(27)

「子育てアップ」チャレンジプラン 平成19年度 実践報告書

～子どもが変わる、おとなが変わる、家庭も変わる～

はじめに

子どもの生きる力を育むために、学校教育と家庭教育と地域教育の連携、充実が不可欠です。なぜなら、学校教育で生きる力の基礎・基本を「知識」として学び、その「知識」を活用し体得することで初めて、生きる力が「身に付く」というレベルに達します。「知識」を活用し体得するそのフィールドが、家庭であり地域だと位置付けているからです。また、家庭は、学校教育を十分に吸収できる態勢を整えて、子どもを学校に送り出す重要な役割を担っています。

この図式を前提にしたとき、3つの教育力のいずれかひとつでも低下すれば、子どもの生きる力は低下します。極言するなら、これらの教育力の関係は掛け算だと思っています。つまり、ひとつでも欠落すれば（0になれば）教育力の積は0になります。現実的には極論かもしれませんが、春日市教育委員会はそれほどの強い意志をもって、この家庭教育実践事業「子育てアップ」チャレンジプランを、小学校3年生の保護者に提供しました。

このプランの直接の目的は、家庭教育力を高めることによって基本的生活習慣・学習習慣を定着させ、子どもたちが学校教育を十分に吸収できる態勢を整えること。さらに、学校で学んだことをコミュニティの最小単位である家庭で磨き、社会生活の実践の場である地域で磨き、子どもたちの生きる力を育むことにあります。

加えて、学校は「地域に開かれた学校」を目指して家庭教育力、地域教育力を学校教育に取り込み、家庭や地域はその教育力で学校を支えるという、3つの教育力の相互支援、相互補完体制整備に向けての動機付けになればと願っています。

平成20年 3月

春日市教育委員会教育長 山本 直俊

【I 総論 『子育てアップ』 チャレンジプランとは】

1 春日市が本プランを導入した理由

(1) 知識から実践へ（「知っている」から「している」へ）

家庭教育は、教育基本法の改正（平成18年12月）により第10条に新設、明記されたことでも明らかなように、その重要性は誰もが認めるところです。

しかしながら、小中学校の義務教育とは対照的に、教育行政における家庭教育（社会教育）は、すべての家庭を対象としながらも学ぶ側（家庭）の任意・自主性に委ねられています。したがって、行政が強制的に教育するというものではありません。

このため、現在の家庭教育事業は、家庭教育学級に代表されるように自ら学級生として応募された一部個人を対象としており、しかも知識教育を中心としたものとなっています。参加者（学級生）にとって十分教育効果はある事業ですが、全体の家庭教育力の底上げという点では限界があります。

また、知識と行動が一致するとは限りません。「知っていること」と「実施していること」は、必ずしも一致していないからです。さらに、実際に実践してみて初めてわかることがたくさんあります。

家庭教育はすべての教育の基盤と位置づけ、学校教育、地域教育との連携を重要課題として模索している本市教育委員会は「教育行政が何とか**家庭教育の実践事業**に踏み込めないか」と、これまでの社会教育の弱点への切り込みを発想しました。この発想が「子育てアップ」チャレンジプラン（以下プランといいます。）企画の出発点です。

(2) 家庭教育はすべての教育の基盤

中教審答申は「**家庭は教育の原点であり、すべての教育の出発点**」と述べています。「点」という表現から、この教育対象は児童を指しているのではないかと思います。家庭教育という「点」に触れ、学校教育という「点」を結んで線になります。さらに、その延長線上に生涯学習（教育）があるという概念でしょうか。

本市教育委員会は家庭教育をすべての教育の「**基盤**」として、つまり、面として捉えており、その対象は保護者であり、その子どもだと位置付

けています。

「基盤」と捉える理由は、学校教育は、しっかりした家庭教育という基盤の上に立ってこそ十分に力を発揮できると考えているからです。

さらに、地域の教育力がこれらを支え、補完するという教育体系こそ春日市教育委員会が目指す理想形です。その形は、

(家庭教育) × 確かな学校教育力で子どもを教育する。(学校教育)
× 学んだ知識を家庭や地域で練磨する。(家庭・地域教育)

= 子どもの生きる力

であるという捉え方をしています。

2 本プランが設定したプログラム（内容）とは

(1) 本プランが目指していること

① 子どもには「生活習慣定着」と「自立心育成」を

「生活習慣定着」と「自立心育成」というこの二つの課題は、家庭教育を受ける子どもにとっては達成目標であり、家庭教育を行う保護者にとっては教育目標になります。

福岡県では、国（文部科学省）の全国展開に先駆けて、福岡県PTA連合会（県P連）が中心となって、平成17年度から“新”家庭教育宣言と題して「早寝・早起き・朝ごはん」など基本的な生活習慣の定着を主眼とした実践運動を展開してきました。実践するのは主に小学校児童で、18年度には本市内の小学校も含めて県下138校もの単位PTAが参加し、相当の成果があったと報告されています。

一方、本プランは、第1の課題である生活習慣・学習習慣の定着をより確かなものとするために、同宣言よりも長期間（6箇月間）実践するという大きな特徴があります。

前述したとおり、子どもが生きる力を身に付けるためには、まずその基本的な知識・技術を学ぶ必要があります。また、しっかり学ぶためには、子ども自身の学ぶ態勢が十分に整っていることが前提になります。

この「学ぶ態勢を整える」のが基本的な生活習慣であり、「学んだ知識・技術をより高め、習得を確かなものにする」のが家庭学習習慣だと考えています。

次に、芽生え始めた子どもの自立心をすこやかに成長させることが第2の課題です。親離れの始まり、新しいこと（もの）への挑戦。これま

でに習得した生きる力を身に付けるための基礎・基本を駆使して、今の自分より少し高いレベルを目指す。子どもの自立心を高めるために、その手助けができないか、きっかけを提供できないかと考えました。

家庭内で自分の役割を見つけその役割を果たすことで、自信を持ち、自分の存在感・居場所を実感する。基本的な生活習慣・学習習慣の定着と併せて、自立心を育成し、自尊感情を高め、更なる向上心へと結び付けられればという視点で本プランを企画しました。

② 親（保護者）には子育て力（家庭教育力）の向上を

子どもの基本的な生活習慣・学習習慣を定着させること、自立心を育てることが保護者の教育目標で、家庭教育の重要な役割になります。

子育てに当たっての教育力を育成・向上させるために、この子育て力（家庭教育力）を以下の4つの視点で整理してみました。

- **子どもに接する力** = 場に応じた接し方、子どもとの対話
- **子どもに対するしつけの力** = 一貫したしつけの構え、基本的な生活習慣・学習習慣の定着
- **子どもの価値観を育てる力** = 日常的な会話、体験活動等による価値観の醸成、善悪の判断・生命の尊重
- **親としての自己研鑽力** = 研修参加、日々の子育てによる研鑽、相談できる人脈

これを家庭教育力を構成する4要素と位置付け、各保護者がこの構成要素を意識しながら向上させることができるような仕組みが必要だと考えました。

このように子どもと保護者それぞれに目標を設定し、実践対象についても、子どもだけの取組とするのではなく親（保護者）も一緒になって実践する仕組みにした方が、より効果的だと考えました。

つまり、この実践プログラムが目指したものは、基本的な生活習慣・学習習慣の定着に加えて、子どもの自立心を育てること、保護者の家庭教育力を構成4要素を意識しながら向上させることです。また、子どもと保護者双方の実践によりそれぞれの力量を相乗的に向上させることで、子どもの生きる力を育もうというねらいがあります。

(2) そのために、どんなプログラムを設けたか

本プランは、基本的な生活習慣の定着を目指す**基本メニュー**と、自立心を育てるために実践してほしい項目を例示した**チャレンジメニュー**で実践プログラムを構成しています。

① 基本メニュー

基本メニューは、「早寝、早起き、朝ごはん」や「あいさつ」など基本的な生活習慣の定着を目指すもので、指定された項目を参加者全員が取り組む共通メニューです。子どもにとっては、その項目そのものを毎日実践することが課題になります。

一方、保護者については、子どものそれぞれの項目実践を支援することが課題です。子どもへの呼びかけ・確認であったり、朝ごはんを作る、挨拶を指導するといった具体的な行動になります。

② チャレンジメニュー

チャレンジメニュー（子ども用）は、実践項目を知育、徳育、体育等に分類して例示しました。実践する子ども自身が、自身の現在の状況に応じて、自身の意思で選択できるようにと考えました。

また、**チャレンジメニュー（保護者用）**は、家庭教育力の構成4要素（接する、しつけ、価値観、自己研鑽）に分類して例示しました。この分類による例示は、子どもと同様、保護者自身の子育て力について4要素を意識しながら向上してほしいという思いがあります。どの要素を重要視するかは保護者に委ね、自身に必要なメニューを選択できるように提供しています。

さらに、このチャレンジメニューは、実践項目を「**毎日すること**」、「**毎週すること**」、「**毎月すること**」という実践頻度別に区分して例示しています。

(3) どんな実施を展開したか

① 提供の対象は小学校3年生家庭

本プランを展開する対象を検討した結果、19年度は**小学校3年生を持つ全家庭**としました。

対象児童は、5月1日現在で市内12小学校1,253名になります。子どもと保護者にとって、家庭教育を必要としない時期などありませ

んが、もっとも重要な時期はいつなのかを課題に検討しました。

検討するに当たってのキーワードは「自立（心）」。小学校6年間のうち、子どもに自立心が芽生える時期。新しいことに挑戦する気持ち。保護者にとっては、子どもへの接し方の転換期。それまでの保護者主導による子育てから、少しだけ子どもの自主性、主体性を視野に入れた接し方が求められる時期。家庭内での役割を持ち、自分が必要とされる存在であるという自覚と自信を持たせる時期。これらのことが求められる時期を考えると、小学校中学年（3～4年生）がもっとも効果が高いと判断しました。このプランが、今年度から初めて取り組み、初めて提供するものであることから、3年生家庭を対象とすることにしました。

親子の関わり方のイメージとしては、抱っこする（乳幼児期）、手をつなぐ（小学校低学年）、**視界の範囲で手をはなす（小学校中学年）**、視界の外でも手をはなす（小学校高学年以降）。関わり方をこの4段階に区分すると、第3段階に当たる時期です。大切なことは、いずれの段階においても、決して「心は離さない」ということです。

「親」という字は「立ち木に隠れてそっと見る」と書くのだそうです。

② 実践期間は6箇月間

5月から10月までの6箇月間としました。1箇月単位から12箇月間（1年間）まで様々な検討を行いました。3箇月未満では動機付けにはなるけれども、生活習慣等の定着には不十分ではないか。長期間のほうが効果的ではあるけれども、6箇月を超えると実践継続性に不安がある。例月とは異なる夏休みなど長期休業中の生活パターン（実践結果）も検証したい。実践シート提出率の月別変化も今後の取組の参考にしたい。これらの要素を検討し、19年度は、1年の上期（6箇月間）を実践期間とし、下期を集計・分析・公表期間としてスケジュールを編成しました。

3 平成19年度 プラン実践結果の概要

(1) 実践結果の報告件数は延べ2, 494件

児童1, 250件、保護者1, 244件の合計2, 494件の実践結果が報告されました。

児童とその保護者それぞれが取り組んだ結果を記入する「実践シート」（2枚）と、1箇月の取組結果を振り返る「評価シート」（1枚）の

合計3枚のシートを提出していただきました。

平成18年5月1日現在の3年生児童数1,253人に対して、提出率は16.6%でした。

(2) 各メニューの実践率は

基本メニュー全体（児童と保護者の合計）の実践率は、87.1%でした。児童・保護者別では、児童が82.9%、保護者が91.4%という結果でした。

チャレンジメニュー（児童）の全体（毎日、毎週、毎月）の実践率は、82.7%でした。実施区分別では、毎日することが76.3%、毎週することが107.7%、毎月することが155.1%でした。

また、チャレンジメニュー（保護者）の全体（毎日、毎週、毎月）の実践率は、85.4%でした。実施区分別では、毎日することが80.2%、毎週することが109.1%、毎月することが134.0%でした。

(3) 保護者の評価は「効果あり」

評価シート（5月～10月合計）の事前評価と事後評価の比較結果から、このプランの実践が基本的生活習慣の定着や家庭教育力の向上に効果があった、ということが読み取れます。

基本メニュー全体では、事前評定4.14（5点満点）から6箇月後の事後評定4.33（同）へと向上しています。

特に、「早起き」は10%以上も伸びており、重点的に取り組まれたことが窺われます。

チャレンジメニュー全体では、事前評定3.25（同）から6箇月後の事後評定4.01（同）へと大幅に向上しています。

家庭教育力全体では、事前評定3.24（同）から6箇月後の事後評定3.50（同）へと向上しています。

各メニューの実践項目定着度と家庭教育力の全13項目すべてが向上したと、実践家庭の保護者自身が評価しています。

以上が、プランの概要と19年度実践の集計結果です。

【Ⅱ 各論】

1 プラン参加状況

6箇月間にわたって提出された実践シート、評価シートの集計結果と自由意見記載内容から、プランへの参加状況と各メニューごとにその特徴や傾向（わかったこと）について考察します。

月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	平均
提出率	29.6%	23.5%	13.3%	13.1%	11.0%	9.3%	16.6%

シートの提出状況（実践参加状況）を見ると、初月の5月は約30%と、かなりの関心を示してもらえたものと言えます。

しかし、最終月の10月が約9%と、月を経るにしたがって逡減しています。このプランの企画段階から予想はしていましたが、6箇月間という実践期間の長さが参加家庭にとってかなりの負担になったものと推測されます。

参加者にはこのプランの趣旨や必要性は理解されたものの、実践シート、評価シートに記載し、集計するという作業の煩雑さも手伝って、継続を断念された家庭も多いと思われます。

このことは、実践前の保護者等への説明会や評価シートの自由記載欄で、多くの保護者から意見をいただきました。

【成果】（評価シート：自由記載から）

- ・ プラン実践、シート提出は大変だったけれども、子どものために頑張った。
- ・ 兄弟姉妹にも影響を与えた。（3年生以外でも実践された家庭がある。）
- ・ 子育てに無関心だった配偶者（主に父親のこと）を巻き込むきっかけになった。

【課題】

- ・ 6箇月間という実践期間の再検討。（提出率が3箇月目に大幅に下落している。23.5%⇒13.3%）

- ・ 学校間で提出率にばらつきがある(A小学校 52.5%⇒B小学校 3.5%)。周知方法、実践参加協力依頼の再検討。
- ・ 実践シート、評価シートの記載方法など、煩雑さ軽減の検討。

2 各メニューの考察

(1) 基本メニュー

① 早寝 実践率 67.0% (児童 56.0% : 保護者 78.0%)
事前評価 3.16⇒事後評価 3.31 (+0.15 ポイント)

基本メニューの中では、もっとも低い実践率でした。

就寝時間の設定を「夜9時まで」(県設定は10時まで)にしたことで、それまでの各家庭の生活習慣とにずれがあったことが大きな要因ではないかと思われます。実践家庭の中には、家族のルールで独自に9時30分に変更して実践されたケースも報告されています。

集計結果から、実践率では児童 56%⇒保護者(早寝の声かけ) 78%と、20ポイントもの大きなギャップがあることがわかりました。

この実践率の差については、物理的にその時間までに寝ることができないケースは排除されていますので、明らかに児童と保護者の意識のずれだと思われます。

早寝を考えるに当たって最も注意すべきことは、早寝そのものが目的というより、「早起き(朝7時設定)するために」を目的とした逆算であるということ。つまり、朝7時に(自分で)起きるためには何時に寝たらよいか、という早寝を実践する意味を子どもと保護者が共有する必要があるということです。

なお、月別の実践率比較では児童 55.5%(5月)⇒60.7%(10月)と、明らかに向上しています。一方、保護者(早寝の声かけ)は81.3%(5月)⇒79.7%(10月)へと-2.1%低下していますが、この低下は声かけを怠ったと見るより、早寝が定着した結果「声かけの必要がなくなった」と評価する方が妥当ではないかと思われます。

② 早起き 実践率 79.9% (児童 67.7% : 保護者 91.9%)
事前評価 3.41⇒事後評価 3.75 (+0.34 ポイント)

基本メニューの中で、もっとも実践結果にギャップがありました。

実践率で見ると、児童 67.7%⇒保護者 91.9%と、実に 24 ポイント以上の開きがあります。

「朝 7 時に」に加えて「自分で（起きる）」という 2 つの課題を両方とも達成していない場合は実践結果を×にされているシートが散見されました。この実践基準は教育委員会が設定したのですが、この基準に忠実に、子どもにとって厳しすぎるかとも思われる採点をされた保護者もおられ、3 年生にとって少し重い課題だったこともあり、思いのほか低い実践率になったようです。

しかしながら、月別の実践率比較では児童 66.6%（5 月）⇒69.0%（10 月）と、2.4 ポイント向上しており、早起きの重要性は認識されていると言えます。

ただし、夏休み（長期休業期間）である 8 月は、早寝、早起き、朝ごはんのすべてで、前月（7 月）に比べて実践率が低下しており、基本的な生活習慣に乱れが見られます。

また、この集計結果は、当然のことながらこの 3 項目に相関関係（寝ない⇒起きない⇒食べない）があること、3 点セットで運動を進める必要があることを示す貴重なデータになりました。

<p>③ 朝ごはん 実践率 97.9%（児童 98.8%：保護者 96.9%） 事前評価 4.84⇒事後評価 4.95（+0.11 ポイント）</p>

基本メニューの中で、もっとも実践率が高い結果になりました。

保護者に必要性が浸透しているものと思われます。

児童（朝ごはんを食べる）は、月別の実践率でも 98.6%～99.3%と 6 箇月間を通じて安定しており、想像以上に定着していることがわかりました。

保護者（朝ごはんを作る）についても 96.9%と高率ですが、喫食率（98.8%）より 1.9 ポイント下回っています。つまり、毎朝作ったものを朝食として提供しているわけではないことを示しています。

調理の必要のない食材で朝食を済ませているなど、理由は様々考えられます。今回のプランでは、朝ごはんを食べることを課題にしており、実践シート・評価シートでは、朝食内容にまでは触れていません。

このため、朝ごはんの質（内容）について言及することはできませんが、朝ごはんが定着した家庭は、次のステップとして栄養バランスなどを考慮するよう心がけてもらえたらと思います。

④ おはよう 実践率 96.8% (児童 95.3% : 保護者 98.2%)
事前評価 4.68⇒事後評価 4.82 (+0.14 ポイント)

1日の始まりは「おはよう」のあいさつから。気持ちのよいあいさつは、1日を楽しんでくれそうな不思議な力を持っています。

実践率を見ると、児童、保護者ともに95%を超えており、特に保護者については10月の結果では99%を超えています。

早起き、おはよう、朝ごはんの3点セットが定着すれば、1日のスタート準備は完了ですが、この3項目は学校教育の力が及びませんので、家庭で責任を持って定着させる必要があります。

そういう視点でこの実践率の高さを見ると頼もしい限りですが、詳細に見ると、保護者と児童の実践率の差が2.9ポイントあります。この差からは、保護者から先に「おはよう」の声かけをしている状況が想像されます。もちろんそのことが悪いわけではありませんが、次のステップとして「自分(子ども)から進んで」という、より積極的な習慣の定着を目指したいものです。

⑤ おやすみ 実践率 96.9% (児童 96.1% : 保護者 97.7%)
事前評価 4.73⇒事後評価 4.85 (+0.12 ポイント)

1日のしめくくりとしての「おやすみ」のあいさつは、今日1日への感謝の気持ちを表し、明日への活力を養う安眠を誘うという大切な役割を担っています。

この項目は、「おはよう」の実践率と似通った結果になりました。しかも、「おはよう」ほど児童と保護者間に実践率の差がなく、双方から自然にあいさつが交わされていることが窺われます。

また、10月の実践率は児童98.2%、保護者99.2%と、ともに基本メニューの中でもっとも高率で、しかも両者の差は1.0ポイントしかありません。実践当初(5月)と比べると、「おはよう」と同様「保護者主導による声かけ」で始まったものが、「双方自然に」へとステップアップした上で定着したように感じられます。

⑥ ありがとう 実践率 82.9% (児童 81.1% : 保護者 84.7%)
事前評価 4.02⇒事後評価 4.27 (+0.25 ポイント)

基本メニューのあいさつの中でもっとも実践率が低かった項目です。

「感謝の気持ちを言葉に表すのが苦手」という日本人の特性からか、「意識しないとなかなか言葉に出ない。(評価シート：保護者自由記載欄から)」というコメントに代表されるように、児童にとっても保護者にとっても難しい課題だったようです。

この意識も手伝ってか、「ありがとうを言う場面があまりない。(同)」というように、「特別の言葉」と感じている保護者がかなりおられたようです。

しかしながら、月別の実践率を見ると、児童(5月)77.7%⇒(10月)87.4%、保護者(5月)83.2%⇒(10月)88.8%へと、ともに大幅に伸びています。特に、児童は12.8%と2ケタの伸びを示しており、基本メニューの中で最も定着率が上がった項目です。

実践期間が進むにつれて「些細な出来事にもありがとうを心がけた(評価シート：保護者自由記載欄から)」、「自然にありがとうが出るようになった(同)」など、家庭内のコミュニケーションの向上、ほほえましい光景が目に見えようようで、とても嬉しく思いました。

(3) チャレンジメニュー

① 毎日すること 実践率 78.1% (児童 76.3% : 保護者 80.2%) 事前評価 3.53⇒事後評価 4.09 (+0.56 ポイント)

保護者の評価では、事後評価 4.09 と事前評価から 0.56 ポイント向上しています。

6箇月間毎日取り組むということは、保護者はともかくとして、子どもにとっては興味本位では続きません。

しかし、実践推移で比較すると、実践率児童(5月)75.8%から始まって、おおむね月を追うごとに上昇していき、最終10月では79.5%にまで実践率が向上しました。一方、保護者の実践推移は、最初(5月81.6%)と最後(10月83.7%)の実践率が高く、中盤(6月～9月)が落ち込んでいます。

この実践推移の違いには、興味深いものがあります。

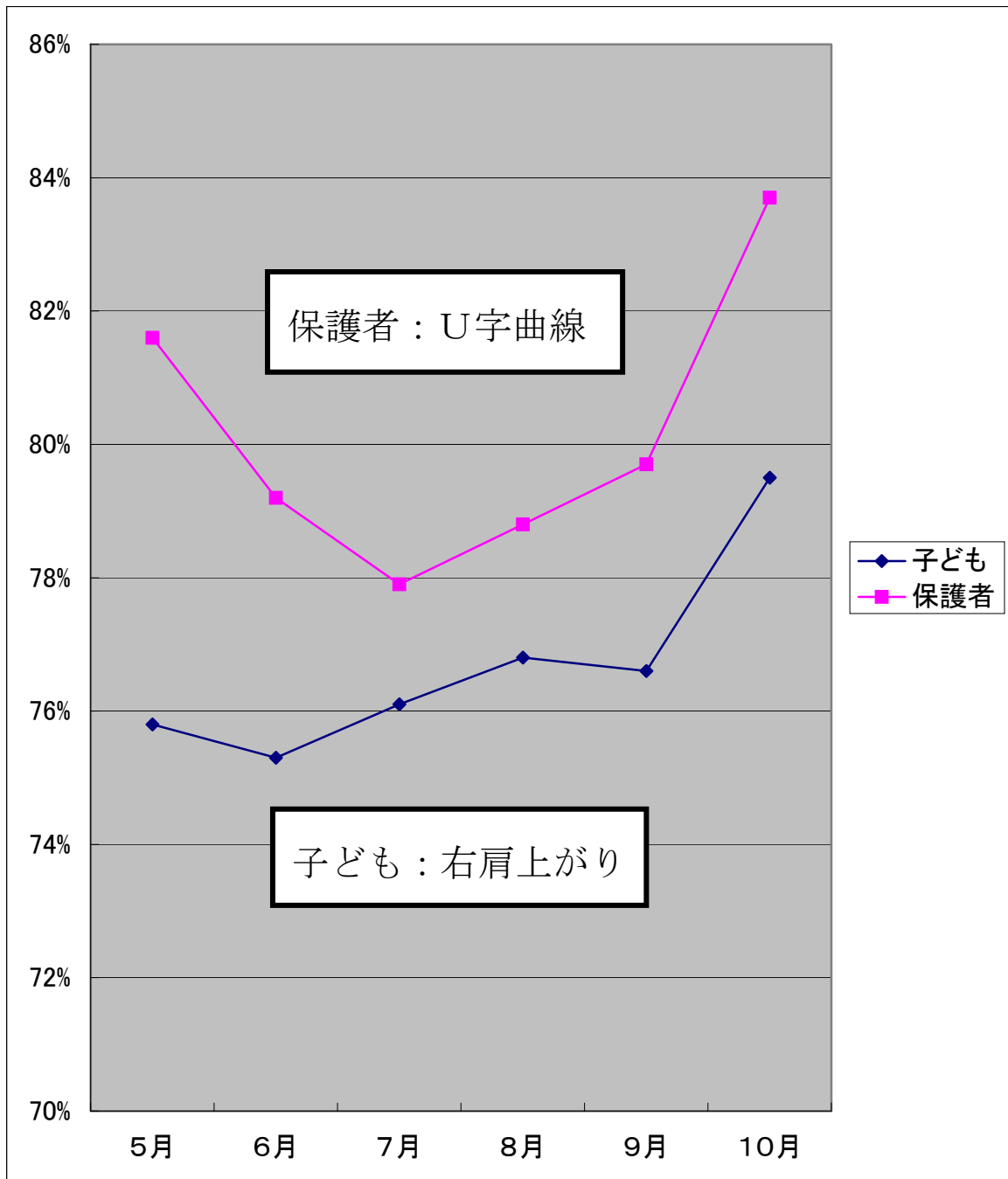
児童のグラフは、自立心という新しいものに挑戦していこうとする気持ちが、一進一退を繰り返しながらも着実に上昇曲線を描いて育っているように見えます。

一方、保護者のグラフは、このプランを受動的に捉え、自身が持っている家庭教育力を発揮し始めたものの、月を経るにつれてモチベーショ

ンがだんだん下がっていきます。しかし、家庭教育の必要性を能動的に捉えた、つまり受身から主体へと取組姿勢が変容した時期から上昇曲線に転じたのではないかと想像されます。(次ページ参照)

【チャレンジメニュー（毎日すること）の月別実践推移】

	実践率(5月)	(6月)	(7月)	(8月)	(9月)	(10月)
子ども	75.8%	75.3%	76.1%	76.8%	76.6%	79.5%
保護者	81.6%	79.2%	77.9%	78.8%	79.7%	83.7%



(チャレンジメニュー：児童)

チャレンジメニュー（子ども用）では、知育、徳育、体育・食育・健康、生活習慣・その他に区分して、59項目の実践メニューを例示しました。

59項目すべてのメニューについて考察することはできませんので、その中から児童が選択した人気メニュー上位5項目を取り上げます。

もっとも人気が高かったのは、「自分で食べた食器をかたづけよう。」（食育）で延べ194人が選択し、実践率は85.9%とベスト5ではもっとも高く、かなり定着しています。

「自分の分だけでなく、家族全員分をかたづけた。(自由記載：児童)」、「食べ残しが少なくなった。(同：保護者)」など、食育はもちろん徳育にまで発展したケースも報告されています。

第2位は「風呂そうじをしよう。」（徳育）で延べ155人が選択し、実践率は56.5%とベスト5ではもっとも低い結果になりました。3年生にとって毎日の風呂そうじは、少し重たい役割だったようです。家庭内の役割を持たせる場合、もう少し軽い課題から始める必要があるかもしれません。

第3位は「玄関の靴ならべをしよう。」（徳育）で延べ144人が選択し、実践率は62.3%でした。比較資料がありませんので、この率が高いのか低いのか判断が難しいところです。

まずは「自分の靴をならべる」ことから始めて、定着したら「家族の分まで」という保護者のアドバイスで効果があったというケースがありました。与えられた課題を一律にではなく、子どもや家庭の状況に応じて工夫して実践された様子が報告されています。

家庭教育力の視点から、「子どもに接する力」や「子どもをしつける力」について考えるヒントになる報告でした。

第4位は「宿題をしてから遊ぼう。」（知育）で延べ166人が選択し、実践率は84.1%でした。（注：選択した児童数では2番目でしたが、このベスト5は対象日数順にしました。）

この項目は、学習習慣の定着を目指すという学校教育を直接支えるメニューで、重要項目のひとつに位置付けていました。

ただし、メニュー選択に当たっては保護者の意思が感じられます。児

童自身が選択したというより、保護者が推薦したのではないかと思われます。後述しますが、保護者のチャレンジメニュー人気No.1は「**宿題のチェックをする。**」で他の項目を圧倒しており、その実践率も83.6%と、児童の実践率にかなり近い結果になっています。

第5位は「**本を読む時間を取ろう。**」(知育)で延べ106人が選択し、実践率は74.4%でした。

読書活動は、朝の10分間読書など多くの学校が力を入れており、児童には取り組みやすかった項目だったようです。

活字離れが指摘されて久しくなりますが、本に親しむ習慣付けの項目をこれほど多くの児童が選択したことは喜ばしいことであり、心強い限りです。

(チャレンジメニュー：保護者)

チャレンジメニュー(保護者用)では「接する力」、「しつけの力」、「価値観を育てる力」及び「自己研鑽力」の4つに区分して、28項目の実践メニューを例示しました。

今回の結果から、保護者は、家庭教育力の4要素のうち「接する力」にもっとも力点を置いたことがわかります。ベスト5のうちベスト4までがすべて「接する力」の項目で占められています。自由記載欄のコメントでも、「接するとは」を自問自答したものが数多く見られました。

人気No.1は、前述したとおり「**宿題のチェックをする。**」(接する：知育)で延べ423人という圧倒的多数の保護者が選択し、実践率も83.6%とかなり高い結果になりました。

このころまでに家庭学習習慣が定着すれば、小学校高学年以降は宿題について、あまり口うるさく注意しなくてもよくなるそうです。

また、「接する力」の視点から、低学年の「答をチェックする」から「考え方、問題のポイントに関するアドバイス」へと、接し方(チェックの仕方)が少し変わってくるのもこのころです。

ただ、この時期には個人差もあり、育児と同様、自分の子どもがどのレベルにいるのかを見極める力が必要で、併せて「親としての自己研鑽力」が求められます。

第2位は「**子どもの話を5分以上聴く。**」(接する：徳育)で、延べ184人が選択し、実践率は91.3%とベスト5の中ではもっとも高く、子ども

とのコミュニケーションを大切にしている様子が窺えました。

「学校のこと、友達のこと、たくさん話してくれました。(自由記載：保護者)」、「いろんなことを話してくれて、(子どもが)積極的になりました。(同)」などたくさんコメントが寄せられました。

子どもが見えていなかった、自分の接し方を見つめ直したなど、実践を通して「聞くこと」と「聴くこと」との違いを実感するよい機会になったようです。

第3位は「1日1回以上ほめる。」(接する：徳育)で、延べ162人が選択し、実践率は75.8%とベスト5の中ではもっとも低い結果になりました。

基本メニューの「ありがとう」と同様、感謝の言葉を口に出すのが苦手というマイナス要素があるのかもしれませんが。

また、子どもの欠点はすぐに見えて、叱る、貶すは容易にできそうですが、ほめるためには子どもをよく見る必要があります。子どもの話をよく聴く必要があります。

ただできえ忙しい保護者にそんな時間もゆとりもないと言われるかもしれません。確かに時間の問題は大きな障害ですが、ほめようと意識する気持ちが大切だと思います。ほめる習慣が定着すれば、どんなに小さなことでも自然に「すごいね、よかったね」などと子どもにとってプラスイメージの言葉が出るのだそうです。

子どもを育てるのに、短所(欠点)是正型と長所伸長型があり、どちらが正しい、正しくないというものではありません。しかし、子どもは叱られると沈み、ほめられると喜び自信につながります。3年生という学齢を考えると、後者に少し比重を置いた方が効果的でしょうか。

第4位は「(子どもの)1日の出来事を聴こう。」(接する：徳育)で、延べ149人が選択し、実践率は84.7%でした。

類似項目である第2位の「5分以上聴く」は、家事をしながら等ながら聞きではなく、あえてその機会を設定し、子どもと正対して(子どもと目を合わせて)聴くという積極的傾聴を期待したものです。併せて、子どもには5分間のプレゼンテーション能力の向上を期待しています。

本項目は、その前段となる「まずは子どもの話を聴く」という習慣の定着を主眼としたものです。子どもの1日の様子を知ること、学校での勉強の状況や友人関係を把握することができます。

「ギャングエイジ」と呼ばれるこの学齢期は、友人との仲間意識の芽

生えや親離れの始まりが特徴で、この時期にこそ子どもの自立心、自主性を尊重した確かなコミュニケーション力が求められます。

第5位は「子どもの役割（当番の）、声かけをする。」（しつけ：徳育）で、延べ127人が選択し、実践率は80.0%でした。

初めて家庭内での役割を持った子どもは、興味本位だけでは長続きしないものですが、保護者の声かけ、励ましがあれば徐々に定着していきます。そして、役割を果たしている子どもに、その行為に対する感謝の気持ちを伝えることで、子どものやる気は格段に向上します。

子どもは「自分は誰かのために役立っている、必要とされている」という満足感、自分の居場所を確信し、これが自立心、向上心へと発展していきます。

「声かけ、励まし、感謝」で子どもとのコミュニケーションを図り、家庭内での存在感と生活習慣を身に付けさせる第一歩として、積極的に働きかけたいものです。

<p>② 毎週すること 実践率 108.4%（児童 107.7%：保護者 109.1%） 事前評価 3.14⇒事後評価 3.90（+0.76 ポイント）</p>
--

保護者の評価では、事後評価 3.90 と事前評価から 0.76 ポイント向上しています。

「毎週すること」は、日々取り組む「毎日すること」とは異なり、休日や週末を活用した家族のコミュニケーション機会の確保を中心にメニューを提示しています。また、少し時間をかけて取り組む必要があるメニューも盛り込んでみました。（子ども用 22 項目、保護者用 16 項目を例示しています。）

日常生活の習慣付けというより、普段とはちょっと違った体験等を通じて家族のコミュニケーション力を向上させたり、時間をかけて取り組むことによって考え方、発想を広げたりすることを主眼としています。

集計結果では、実践率が児童、保護者ともに 100%を超えています。これは、事前に予定（あるいは目標）を立てて実践するメニューが多く、結果として対象（予定）日数よりも実践日数が上回ったことによるものです。

以下、児童、保護者それぞれが選択した項目ベスト 5 の中から特徴的なものをまとめてみました。

「毎週すること」(児童)では、「家族全員で食事をしよう。」(食育)が人気No.1で、延べ198人が選択し実践率も140.5%と群を抜いています。また、同様に「毎週すること」(保護者)でも、「家族全員で食事する。」(価値観:徳育)が人気No.1で、延べ343人が選択し実践率も153.8%と児童以上に圧倒的な支持を得ています。

家族全員で食事することの意義は、枚挙に遑(いとま)がありませんが、実践家庭からは「食事をする事の大切さ、食材に命があること、食事のマナー」など食育、価値観、しつけの話題で全員が盛り上がった、食卓に全員が揃うことで何より食事おいしい、楽しいという報告がなされています。

また、この実践項目を口実(?)に、父親を家庭教育に巻き込んだという保護者(母親)からの予想外の報告もありました。しかも、この巻き込まれることになった父親からは「普段仕事で忙しくなかなか時間が取れないが、なるべく子どもに関わりたと思う。(自由記載:保護者)」というほほえましい決意表明がなされています。

家族が一堂に会する機会の確保がますます困難になっている今だからこそ、このようなテーマを掲げ取り組まれた家庭の報告は、1週間に1回程度というこの貴重な時間を有意義に活用されたのではないかと推察させる興味深いものでした。

同じく今回のベスト5で児童、保護者ともに選択した項目に「テレビを点けない(見ない)日を実施しよう。」(生活習慣:児童第3位175人、実践率79.5%:保護者第4位148人、実践率94.5%)があります。

テレビは、様々な情報をスピーディーに収集する手段として大変便利である反面、長時間にわたる視聴や、テレビゲームなど仮想(疑似)体験過剰による現実体験の不足などといった弊害も指摘されています。

この項目は、テレビ漬けになりがちな日常生活にあって、1週間に1日ぐらいいはテレビから離れて過ごしてみようとの試みがあります。

児童の実践率をみると、保護者に比べて15ポイントも下回っています。その原因はわかりませんが、テレビ漬けになっているのは大人より子どもの方が多いということは何となく想像できます。

自由記載欄では、「テレビに子守りをさせていた。」「食事中にテレビを消すことで家族の会話が増えた。」と肯定的な意見がある一方で、「学校でテレビ番組やテレビゲームの話題にはいれない。」(児童)、「テレビのない生活はありえない。」(保護者)など否定的な意見も見られました。

この結果だけで、テレビの是非を結論することはできませんが、それ

ぞれの家庭でこの課題を共有することは大切だと思いました。

本項で最後に特筆すべきことは、児童の第2位（選択児童数では第1位）の「1冊の本を読もう。」（知育）で、延べ199人が選択し実践率も134.2%と、100%を大きく超えています。

読書活動への親しみは、「毎日すること」（児童）の第5位「本を読む時間を取ろう。」の項でも触れたように、読書活動に積極的に関わっている学校（教育）の影響が大きいのではないかと思います。

本を読む、活字に親しむことは、人格形成に影響を与えることは言うまでもありませんが、最近の学校教育においても、国語に限らず他教科でも国語力が求められています。国語教科でいう読みの力とは少し性格が異なりますが、例えば算数教科では、柔軟な思考力、確実な理解力に加えて、関係性や論理性といった問題の意図を読み取る算数的読みの力を問う傾向が顕著になっています。

なお、実践児童の中には、1冊ではなく「3冊の本を読もう。」と課題を上方修正して取り組んだ意欲的なケースもありました。

また、「市民図書館に定期的に行くようになった。（自由記載：保護者）」など公共施設利用の活性化に結びついた思いがけない事例も報告されています。

<p>③ 毎月すること 実践率 145.4%（児童 155.1%：保護者 134.0%） 事前評価 3.02⇒事後評価 4.03（+1.01ポイント）</p>

保護者の評価では、事後評価 4.03 と事前評価から 1.01 ポイントも向上しています。学校の通信簿に例えれば 3 が 4 に上がったようなもので、評価シート全 13 項目を通じてもっとも向上した項目です。

本項の「毎月すること」は、「毎週すること」に性格は似ていますが、家庭内でのイベントや、家庭外や地域をフィールドとしての自然体験など、「毎週すること」より少しスケールアップしたものを中心にメニューを提示しています。（子ども用 14 項目、保護者用 12 項目を例示しています。）

身近な地域の自然に目を向けたり、高齢者などの地域の大人との交流、子ども会活動やクリーン作戦といった地域活動に参加したりと、家庭内だけでは体得できない社会性に触れることを主眼としています。

集計結果では、「毎週すること」と同様、実践率が児童、保護者ともに 100%を超えています。しかも、両者とも大幅に超えており、特に児

童からは、月 1 回程度の保護者との同一行動を心待ちにしている様子も報告されています。

以下、児童、保護者それぞれが選択した項目ベスト 5 の中から特徴的なものを取り上げます。

「毎月すること」で児童、保護者ともに人気No.1 は「家族で散歩しよう。(体育・健康)」で、児童 343 人、実践率 180.6% : 保護者 319 人、実践率 160.6%と人数、実践率とも目を見張るものがあります。

人気の秘密は、お金がかからず手軽に実施できること。家族旅行などと違って事前準備や予約が不要ですし、当日が雨天など計画日に実施できなくても同月内に振替実施が可能であることなどが考えられます。

これほど手軽に実施できそうなイベント(?)に、子どもは意外な反応を示しています。

「せっかく〇〇(保護者)とさんぽできるのに、雨がふってできなかった。(児童：自由記載=表現修正)」と残念がっています。

これを受けてその保護者は、「来月こそ、必ず実施します。」とその思いに応じておられます。親子の確かな絆を感じます。

また、別の報告では「近くの公園に散歩に行くのが日課になりました。(保護者：同)」と公園デビューを果たした親子の報告もありました。

このように、月 1 回程度の行事が日常化して実践率を跳ね上げたことは容易に想像できます。

なお、散歩ですれ違う近隣住民に自然にあいさつ、会釈ができるようになったという報告もあり、「家族連れでの散歩」という形態がより気軽にあいさつしやすい雰囲気になっている、という効用があることも推測されます。地域教育力の観点から、これをきっかけとして近所付き合いへと発展すれば望外の喜びです。

児童、保護者ともに第 3 位になった「自然観察をして、季節を感じよう。(知育)」は、児童 112 人、実践率 352.4% : 保護者 144 人、199.4%と「散歩」を上回る驚異的な実践率でした。

特に児童は、月 1 回程度という概念がないと思えるほど積極的に自然に目を向けています。通学途上で、道端で見かけた草花に興味を持ったり、それに集まる昆虫に興味を持ったりと、このメニューを通じて子どもの好奇心は確実に成長しています。

「公園や歩道の草花に目が止まりました。身近にある自然に気付かずに過ごしていました。子どもはそれを図鑑で調べています。(保護者：

同)」まさに知育を実践されたケースです。自宅にある図鑑を見たり、図書館で調べ物学習をしたりという報告もありました。

メニュー後段の「季節を感じる」ところにまで至ったかは不明ですが、子どもの感性は、無意識のうちに季節の移ろいを感じ取ってくれているのではないかと想像します。

児童、保護者ともにベスト5に入った項目の3つ目は「**地域活動に参加しよう。(徳育)**」で、ともに第4位：児童92人、78.5%：保護者115人、83.4%という結果でした。

他の項目に比べると、100%を下回っており低調のように見えますが、80%前後という実践率は一般市民の地域活動への参加状況と比較して決して低いわけではなく、むしろ他の項目が高かったと評価すべきではないかと考えます。

代表的な地域活動として、廃品回収などの子ども会(育成会)活動、クリーン作戦などの環境美化活動への参加がたくさん報告されています。特に子どもからは、これらの活動への参加、実践を通じて、環境問題に関する関心へと発展させたケースが報告されています。

「**たくさんごみがおちていてびっくりしました。ぼくはぜったいすてません。(児童：自由記載)**」クリーン作戦に参加した児童の報告です。捨てる側から拾う側に回れば、差し引きプラス2の効果になります。捨てる側(消費型)が圧倒的に多い現代社会において、このような地道な活動を通じて拾う側(生産型)を育成していくことは大切なことですし、確実に成果が上がる活動です。

「**家の中でも、ごみを見つけてはごみ箱に入れていきます。(保護者：同)**」、その児童は「**(このプランは) こんげつでおわるけど、ごみひろいはつづけます。(児童：同=表現補足)**」と結んでいます。このような絶好のチャンスに保護者の適切なアドバイスが加われば、生きた徳育になります。まさしく「学校教育で学んだ知識を、家庭や地域で磨く」を実践されたすばらしい報告です。

3 家庭教育力の考察

このプラン実践を通じて、参加された保護者は自身の家庭教育力をどう評価されたのでしょうか。家庭教育力を構成する4要素(接する、しつけ、価値観、自己研鑽)について、評価シートの集計結果と自由記載欄のコメントから、見えてきたことをまとめてみました。

(1) 子どもに接する力

4要素の中では、もともと自己評価が上がった項目です。平均評定事前 3.43 から事後 3.76 へと 0.33 ポイント向上しています。さらに、月別推移で見ると 4 月時点の事前評価 3.35 が、最終 10 月の事後評価では 3.94 へと 17.5% も伸びたことがわかります。

チャレンジメニューの項でも触れましたが、項目分類では「接する」に関するものをもっとも多く保護者が選択しています。家庭教育といえば「しつけ」が直感的に浮かびますが、「接する」を優先された今回の保護者からはこの取組に対する積極的な意欲を感じます。今回の実践から「接するとは」を自問自答されたコメントがたくさん見られました。

「接し方」には 2 通りあるように思いました。ひとつは「人生の先輩である大人として接する。」であり、もうひとつは「子どもの目線で接する。」です。前者は「しつけ」に通じるもので保護者にもわかりやすいと思いますが、後者の「子どもの目線」は、子どもの自立心を育てるために欠かせないものだと思います。

「わかっているつもりでも、気をつけていないと。接し方に気をつけていれば変わってきますね。(保護者：自由記載)」や「話す機会は増えたが、衝突する回数も増えた。(同)」など我が子との接し方について課題を見つけられた保護者が多く、このプラン実践を通じて試行錯誤しておられる様子が伝わってきます。2 通りの接し方の使い分けに正解というものはないのかもしれませんが、それぞれの家庭が、それぞれの場面でどう対応するかを意識しながら接することで、だんだん正解に近づいていくのではないのでしょうか。そう考えると、今回の自己評価の伸びも発展途上で、まだまだ向上が期待できそうです。

(2) 子どもに対するしつけの力

平均評定事前 3.28 から事後 3.57 へと 0.29 ポイント向上しています。月別推移では、4 月 3.24 が 10 月 3.72 へと 14.8% 伸びており、「接する」に次いで向上した項目です。

子どものしつけに当たって、もともと大切なのは「一貫したしつけの構え」を心がけることではないのでしょうか。基本的な生活習慣・学習習慣には、歯磨き、洗顔など子どもの自主性に委ねるものと、食事のマナー、靴をそろえるなど保護者が模範を示して子どもを導くものがあります。

また、これらをしつけるためには、まずそのこと(もの)を子どもに

教える必要があります。しなければならぬことの知識や技術を知らなければ、子どもは実践することができないからです。定着に向けての前段階になります。

そして、保護者が子どもに教えるためには、保護者自身がその習慣等を身に付けていること、定着していることが求められます。「親の背中を見て育つ。」と言われますが、子どもは親の行動を驚くほどよく見ています。保護者自身ができていることを子どもにしつけようとしても、子どもはなかなか納得しません。そこに一貫したしつけの構えが求められます。保護者自身が揺らいでいると、子ども自身も揺らぎます。

併せて、なぜそうしないといけないのか、子どもにその必要性を理解させることも求められます。「躩」という字は「わが身を美しくする。」と書きます。

また、教えたあとは、粘り強く呼びかけること、忍耐強く待つことが必要なようです。「口うるさく言い過ぎて、煙たがられています。(保護者：自由記載)」、「躩とは我慢です。(同)」に代表されるように、子どもは初めて取り組んだことがすぐにできるようになるわけではなく、小波を繰り返しながら徐々に定着していきます。月別推移の「しつける力」の保護者評価結果でも、4月の3.24から3.57↑、3.54↓、3.59↑、3.67↑、3.61↓、最終10月の3.72↑へと、上下動を繰り返しながらも上昇しています。このデータは、子どもの定着度を物語っているように見えます。

(3) 子どもの価値観を育てる力

平均評定事前3.17から事後3.42へと0.25ポイント向上しています。月別推移では、4月3.17が10月3.51へと10.8%伸びており、構成する4要素の中ではもっとも伸び率は小さいものの、やはり2桁の伸びを示しています。

「価値観の多様化」は、よく耳にする言葉です。主として個人の好みの問題として論じられる分には何も問題はありません。

本項で育てたい価値観は、生命の尊さ、公共の道徳(ルールやマナー)、善悪の判断といった人間として最低限身に付けておかなければならないものをテーマとしています。

虐待、いじめ、落書き、ポイ捨て、食べ物(の命)を粗末にする、公共物を大切にしないなど例をあげればきりがありませんが、これらは価値観の多様化とは別次元の話です。

「死んでも生き返る。」と思っている子どもが少なからずいる、という新聞記事を見たことがあります。日本女子大の中村博志教授（小児神経科医）の調査結果によれば、21.9%の子どもが「生き返る、生き返ることもある。」と回答したそうです。死に対する認識の低さが、命を粗末にする最大の原因ではないかと思います。同教授も「最近の子どもによる事件や問題行動につながっているのではないか。」と分析されています。テレビゲームのリセット感覚でしょうか。核家族化が進んで祖父母など家族の死に直面するケースが減ったからでしょうか。

命を大切にすること、すべてのものを大切にすることにつながります。人権は社会生活を送る上で基盤になるもので、学校でも人権教育には力を入れています。家庭でも、家族のルーツなど子どもに身近な命の話として、子どもに伝えてほしいと思います。

チャレンジメニューで「動物の世話をしよう。」を選択した児童のコメントに「きんぎょが死んでしまいました。きんぎょさんごめんない。」というものがありました。家族で生と死、命について話をするよい機会になったのではないかと思います。価値観を育てるには、「身近な題材で」、「そのタイミングで」が、子どもにとって理解しやすいポイントではないかと感じました。

また、保護者のコメントの中に「定期的におじいちゃんに電話をするようになりました。」というものもあり、この実践を通じて祖父母との交流に発展したケースも報告されています。

(4) 親としての自己研鑽力

平均評定事前3.06から事後3.25へと0.19ポイント向上しています。月別推移でも4月3.05が10月3.44へと12.7%伸びていますが、構成する4要素の中ではもっとも低い評価になりました。

4要素のうち他の3要素は、対象が子どもであり、比較的日常生活の中で無意識に実践されていたものです。その点本項は、保護者自身がどう学んだかを問うもので、意識的な行動が求められます。相対的に低い評価はその表れでしょうか。ただし、平均評定は3点を超えていますので、決して評価が低いわけではないと思われれます。

また、本項には他の3要素をランクアップさせる役割があると思います。家庭教育力は先天的に身に付いているものではなく、日々研鑽の中で向上していくものではないでしょうか。

チャレンジメニューでは、学校行事に参加する、地域活動に参加する

などを例示していましたので、自己研鑽力を活動参加と捉えられた保護者も多かったように感じます。その結果、活動への参加が不十分だった保護者は、自己研鑽力の評価を低くされたのかもしれない。

本項で家庭教育力の考察をしているうちに、気づいたことがあります。このプラン実践で、個々の家庭教育力を向上させてほしいというのが目的であることは冒頭に述べました。

しかし、家庭教育力が日々研鑽の中で向上していくとするなら、家庭教育力が十分備わっている家庭（保護者）は別として、その不足する教育力を補完する役割を担っていたものがある（もしくはあった）のではないかと考えました。

それは、「向う三軒両隣」という近所づきあいであり、祖父母や兄弟姉妹が同居する大家族であったろうと思います。自分に不足する教育力を、日常的に接触するこれらの人々が直接的、間接的に補完しあって、子育てが成り立っていたのではないのでしょうか。

個々の教育力を上げることと、不足する部分を補完してくれる人脈を持つことの総体で自己研鑽力を考える必要があるのではないかと思います。

家庭教育力の低下と言われます。過去と比較して、個々の家庭教育力が低下したということも言えるかもしれません。加えて、コミュニティの希薄化、核家族化の進展によって子育ての孤立化が進み、補完されないままの結果が現象として現れているのではないかと感じます。提出された実践シート（子ども用）の90%以上が、同（保護者用）と評価シートは、そのほとんどが母親と思われる方が記載されています。核家族化も進展し、夫婦共働き家庭も増加している中で、子育ての現状は相変わらず母親に集中している様子が窺われ、その悲鳴とも思えるコメントが数多く見られます。

「ただでさえ余裕がないのに、このアンケート（シートのこと？）まで書くのはとても負担です。（自由記載：保護者＝表現修正）」

取り組むことで成果が上がるだろうとは想像できても、そのゆとりがないというのは正直な感想だと思います。自己研鑽力や家庭教育力の向上を考える場合、主に父親の参画、近隣住民を始めとする地域教育力による補完、支援まで視野に入れる必要があるのではないかと思います。

4 成果と課題

以上19年度のプラン実践状況を考察しましたが、もっとも大切なこ

とは、家庭教育力は上がったのか、基本的な生活習慣・学習習慣はどうか、結果として子どもの生きる力は向上したのかということです。

各シートの集計結果、自由記載のコメント等を引用して、実践率が向上したこと、家庭に応じた工夫を加えた上で実践されたこと、実践された家庭の保護者や児童がプラン実践を通じて変わったことなど、それぞれに成果が認められたことは考察の中で報告しました。

ただし、その教育力等の水準がどのレベルにあるのかはわかりません。比較資料がないこと、このプランが初年度であり過去との実績比較ができないことから、水準比較は次年度以降、今後の課題となります。

(1) 成果

これまでの考察等で見えてきた成果をまとめると、次のようになります。

- ① 任意参加とはいえ、家庭教育の実践を事業化できたこと。
- ② このプランを実践した家庭は、家庭教育力が向上することを検証できたこと。
- ③ 対象児童と保護者だけでなく、他の家族にも実践が広がって好影響を与えたこと。
- ④ プランを通じて学社連携が一層進んだこと。(学校も含む)
- ⑤ 家庭教育の重要性を認識する機会となり、学校運営協議会(コミュニティスクール)、PTAなど実践対象者以外でも話題になったこと。

(2) 課題

同様に、いくつかの課題も見つかりました。次年度以降改善に向けて検討を重ねていくこととなります。

- ① 小学校間で参加家庭数に較差が生じたこと。
- ② 保護者にとって、シート記載・報告作業の負担感が大きかったこと。
- ③ 6箇月間という実践期間の長さが参加家庭数に影響したこと。
- ④ 小学校3年生家庭以外に事業拡張すること。
- ⑤ 事業拡張した場合に、集計・分析体制を見直すこと。

(3) 実践成功のポイント

最後に19年度報告のまとめとして、提出されたシートの内容と実践

継続との関係、記載方法などについて、6箇月間のデータ入力・集計作業をしてみて気づいた成功のポイントを報告します。

① 家族全員が見えるところに実践シートを掲示する。

家族が取り組んでいる意思表示が目に見えます。また、日々の実践状況が一目でわかります。

② 選択メニューは自分で選び、自分でシート記載する。

児童自身が自主的に取り組み、記載したシートは感動します。実践率、継続率が格段に向上しています。少なくとも、実践シート（子ども用）は児童自身に記載してもらうことをお勧めします。保護者の負担感軽減にもなります。

③ 月初め、月末に家族で振り返り、課題を共有する。

できたこと、できなかったこと、してほしいこと、してほしくないことなど、翌月に向けての家族作戦会議は想像以上に効果的です。

④ チェックは毎日する。

とても面倒な作業だと思います。でも、毎日チェックが習慣づけば苦にならなくなるそうです。寝る前など、決まった時間が確保できれば一層効果があるとか。

（あとがき）

19年度を振り返って、とてもあわただしく感じました。6月から毎月提出されるシートの入力・集計作業に追われました。その中で、保護者や児童が記載したコメントにずいぶん勇気づけられました。特に、児童からのコメントは楽しく読ませてもらい、1箇月間の生活の様子がよく伝わってきます。保護者との良好なコミュニケーションが描かれており、そのシートは芸術品にさえ見えてきました。個人名をあげることはできませんが、その児童のシートが届くことを毎月楽しみに待っていました。

「にが手だった計算が、大すきになりました。」（5月分）から始まって、学校のこと、家族のこと、習い事のことなど子どもらしい丁寧な字でつづられています。

春日市の子育て家庭がみんなこうなるといいなと思いながら、また、大変な仕事に1年間関わらせていただいた感謝の念を抱きつつ、19年度報告の結びとします。参加して下さった家庭を始め、このプランの企画・立案、実施に関わって下さった関係者の皆様、ありがとうございました。

【 資 料 編 】

1 教育力の体系と家庭教育力の位置付け

2 事業実施要項

3 データ集計結果

- (1) 子育てアップチャレンジプラン集計表（全校 5月～10月分）
- (2) 評価シート（全校 5月～10月分）
- (3) 子育てアップチャレンジプラン 実践推移
- (4) 子育てアップチャレンジプラン 全校集計表

4 様式

- (1) 子育てアップチャレンジメニュー（子ども用）
- (2) 子育てアップチャレンジメニュー（保護者用）
- (3) 実践シート（記載例）
- (4) 実践補助シート（記載例）
- (5) 実践シート（子ども用）様式
- (6) 実践補助シート（子ども用）様式
- (7) 実践シート（保護者用）様式
- (8) 実践補助シート（保護者用）様式
- (9) 評価シート（記載例）
- (10) 評価シート様式

「子育てアップ」チャレンジプラン

～こどもが変わる、おとなが変わる、家庭も変わる～

事業実施要項

1 目的

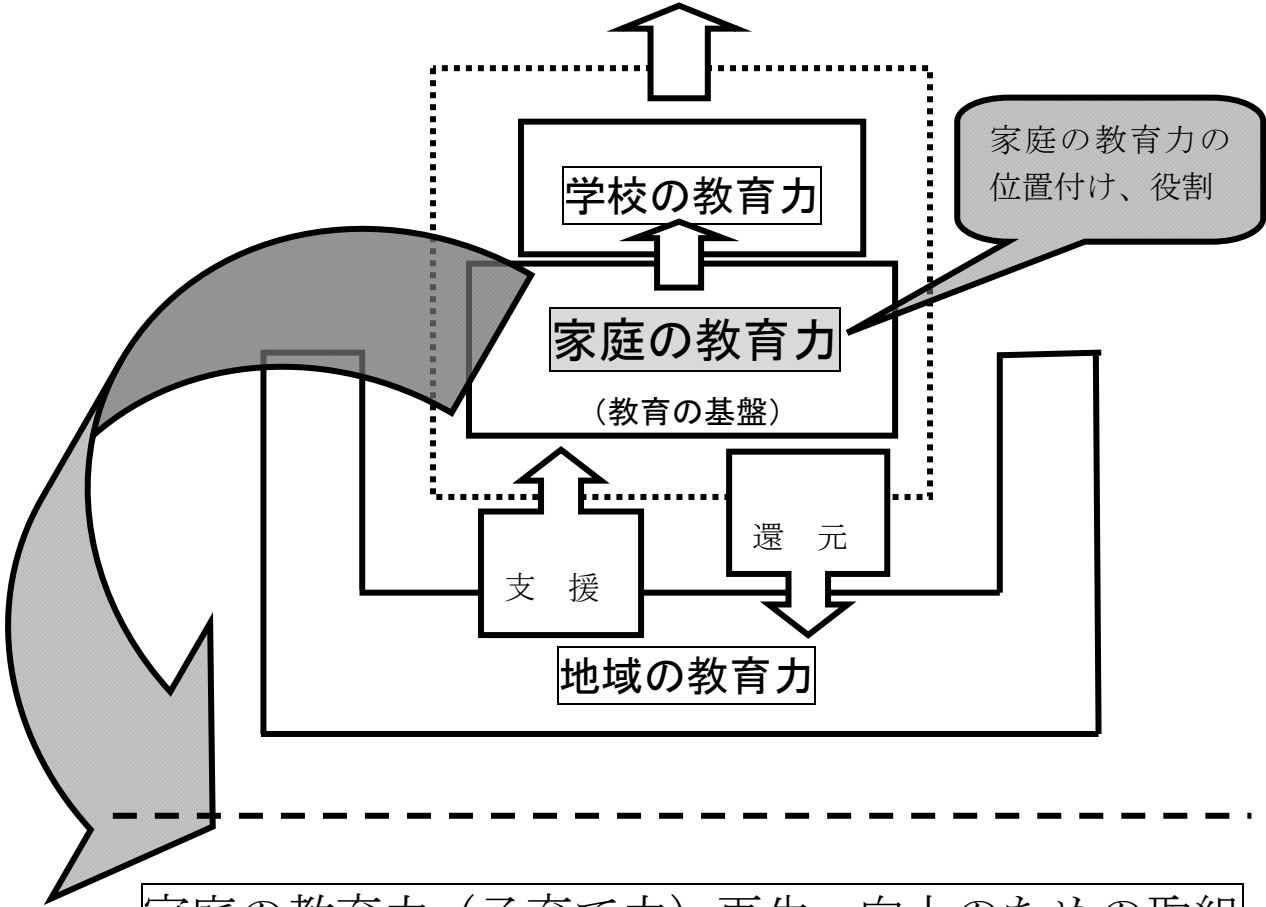
- (1) 有意なプログラム（メニュー）を導入した家庭教育の継続的実践によって、家庭の教育力を高め、21世紀を担う子どもたちの「生きる力」の育成に資する。
- (2) 本事業はモデル事業として位置づけ、その成果を全家庭へ拡充していくこととする。

2 方法

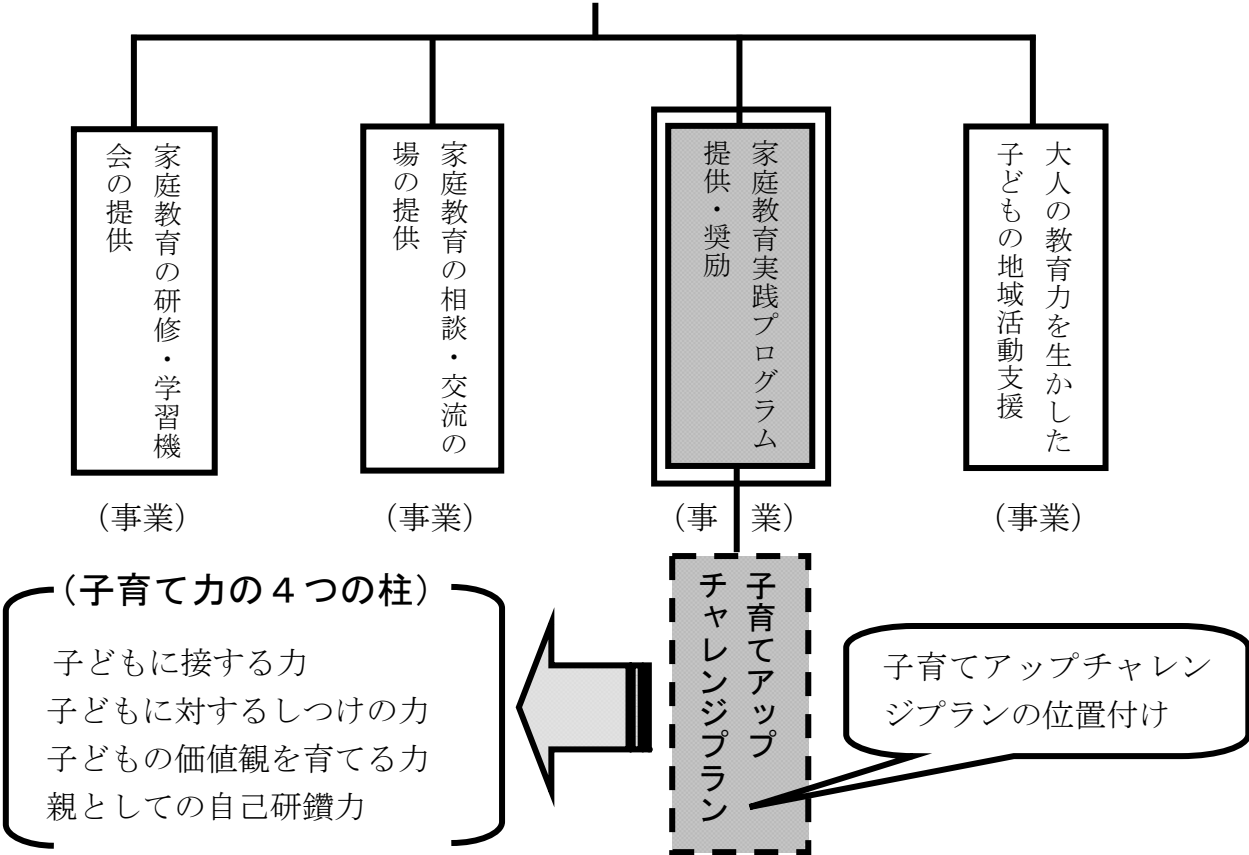
- (1) 「子育てアップ」チャレンジプラン（以下「本事業」という。）は、小学校3年生児童の全家庭（以下「実践家庭」という。）において実践するものとする。
- (2) 本事業は、基本メニュー（「早寝、早起き、朝ごはん運動」（文部科学省による全国展開運動）及び「オアシス運動」項目）とチャレンジメニューを2本柱とするプログラムを実践家庭に提供する。
- (3) チャレンジメニューは、実践家庭において、実践項目（＝毎日、毎週、毎月の区分ごとに実践する内容）を、保護者、児童とも、区分ごとにそれぞれ1項目以上選択することとする。
- (4) 実践期間は、5月から1箇月単位で6箇月間継続して実践し、各月末において中間評価（自己評価）を行うものとする。
なお、2箇月目以降は、実践項目の変更、追加をすることができる。
- (5) 実践家庭は、実践状況を実践シートに記録するとともに、実践前と実践後の変化を1箇月ごとに評価シートに記載し、学級担任を通じて教育委員会に提出する。
- (6) 教育委員会は、提出された実践シート及び評価シートを集計、分析し、その成果を検証するとともに、事業評価を行い、本事業を拡充する。

教育力の体系と家庭教育力の位置付け

子どもの生きる力の育成



家庭の教育力（子育て力）再生・向上のための取組



子育てアップチャレンジプラン集計表(全校 5月～10月分)

提出件数:2,494件(児童1,250件、保護者1,244件) 5/1現在児童数1,253人 提出率:16.6%

【基本メニュー】

	対象日数	実践日数	実践率	
早寝	69,063	46,255	67.0%	(児童:56.0%、保護者78.0%)
早起き	71,615	57,206	79.9%	(児童:67.7%、保護者91.9%)
朝ごはん	72,981	71,439	97.9%	(児童:98.8%、保護者96.9%)
おはよう	73,211	70,834	96.8%	(児童:95.3%、保護者98.2%)
おやすみ	73,215	70,960	96.9%	(児童:96.1%、保護者97.7%)
ありがとう	72,449	60,072	82.9%	(児童:81.1%、保護者84.7%)
合計	432,534	376,766	87.1%	(児童:82.9%、保護者91.4%)

【チャレンジメニュー:児童】

毎日すること 合計	63,763	48,643	76.3%	
1 食器片付け(194人)	5,773	4,959	85.9%	徳育(食)
2 風呂そうじをしよう(155人)	4,565	2,578	56.5%	徳育
3 靴ならべ(144人)	4,317	2,690	62.3%	徳育
4 宿題をしてから遊ぶ(162人)	4,163	3,501	84.1%	知育
5 本を読む時間を取る(106人)	3,100	2,305	74.4%	知育

毎週すること 合計	9,723	10,470	107.7%	
1 家族全員で食事(198人)	1,135	1,595	140.5%	徳育(食)
2 1冊の本を読もう(199人)	1,022	1,372	134.2%	知育
3 テレビを点けない日(175人)	872	693	79.5%	徳育
4 上靴を自分で洗う(191人)	794	584	73.6%	徳育
5 ゴミ出しをしよう(136人)	749	626	83.6%	徳育

毎月すること 合計	2,257	3,501	155.1%	
1 家族で散歩(343人)	392	708	180.6%	体育(健)
2 家族全員で食事作り(150人)	221	157	71.0%	徳育
3 自然観察(112人)	147	518	352.4%	知育
4 地域活動に参加しよう(92人)	130	102	78.5%	徳育
5 家族で映画(98人)	111	141	127.0%	知育

チャレンジメニュー合計	75,743	62,614	82.7%	
-------------	--------	--------	-------	--

【チャレンジメニュー:保護者】

毎日すること 合計	56,494	45,324	80.2%	
1 宿題のチェック(423人)	10,865	9,080	83.6%	接する 知
2 子どもの話を5分聴く(184人)	5,485	5,010	91.3%	接する 徳
3 1日1回以上ほめる(162人)	4,883	3,701	75.8%	接する 徳
4 1日の出来事を聴く(149人)	4,376	3,706	84.7%	接する 徳
5 子どもの役割声かけ(127人)	3,727	2,981	80.0%	しつけ 徳

毎週すること 合計	8,421	9,190	109.1%	
1 家族全員で食事する(343人)	1,892	2,910	153.8%	価値観 徳
2 1週間の時間割(265人)	1,171	1,367	116.7%	接する 知
3 子どもと夕食作り(155人)	720	680	94.4%	接する 徳
4 テレビを見ない日(148人)	715	676	94.5%	しつけ 徳
5 子どもと戸外遊び(146人)	715	611	85.5%	接する 体

毎月すること 合計	1,917	2,569	134.0%	
1 家族で散歩(319人)	353	567	160.6%	接する 体
2 学校行事に参加(136人)	193	204	105.7%	自己研鑽 徳
3 自然観察(144人)	164	327	199.4%	自己研鑽 徳
4 地域活動に参加(115人)	157	131	83.4%	自己研鑽 徳
5 季節の催しを話す(74人)	99	117	118.2%	接する 徳

チャレンジメニュー合計	66,832	57,083	85.4%	
-------------	--------	--------	-------	--

【評価シート】(全校 5月～10月分)

基本メニュー	事前評価	平均評定	事後評価	平均評定	変化値	伸び率
早寝	3,370	3.16	3,738	3.31	0.15	4.8%
早起き	3,669	3.41	4,283	3.75	0.34	10.1%
朝ごはん	5,237	4.84	5,665	4.95	0.11	2.2%
おはよう	5,058	4.68	5,514	4.82	0.14	3.0%
おやすみ	5,115	4.73	5,549	4.85	0.12	2.5%
ありがとう	4,329	4.02	4,837	4.27	0.25	6.1%
合計	26,778	4.14	29,586	4.33	0.18	4.5%

チャレンジメニュー	事前評価	平均評定	事後評価	平均評定	変化値	伸び率
毎日すること	6,303	3.53	8,194	4.09	0.56	16.0%
毎週すること	5,053	3.14	7,056	3.90	0.76	24.3%
毎月すること	4,140	3.02	6,183	4.03	1.00	33.2%
合計	15,496	3.25	21,433	4.01	0.76	23.3%

家庭教育力	事前評価	平均評定	事後評価	平均評定	変化値	伸び率
接する	3,417	3.43	3,981	3.76	0.33	9.5%
しつけ	3,249	3.28	3,759	3.57	0.29	9.0%
価値観	3,135	3.17	3,589	3.42	0.25	7.9%
自己研鑽	3,030	3.06	3,415	3.25	0.19	6.2%
合計	12,831	3.24	14,744	3.50	0.27	8.2%

平成19年度「子育てアップ」チャレンジプラン実践推移

メニュー	実践項目	子・保	実践率(4月)	実践率(5月)	実践率(6月)	実践率(7月)	実践率(8月)	実践率(9月)	実践率(10月)	定着度伸び率
基本メニュー	早寝	子ども	*****	55.5	55.3	55.4	53.8	58.2	60.7	9.3%
		保護者	*****	81.3	76.0	77.4	72.5	79.3	79.7	-2.1%
	早起き	子ども	*****	66.6	68.8	69.0	65.3	69.1	69.0	3.6%
		保護者	*****	91.9	91.7	91.7	91.4	91.9	93.2	1.4%
	朝ごはん	子ども	*****	98.8	98.7	99.3	98.8	98.7	98.6	-0.2%
		保護者	*****	96.4	96.8	97.8	96.0	97.8	98.0	1.7%
	おはよう	子ども	*****	94.7	94.5	96.4	94.7	95.7	98.1	3.5%
		保護者	*****	97.7	98.2	98.9	97.6	98.6	99.1	1.4%
	おやすみ	子ども	*****	95.4	96.3	95.6	96.4	96.0	98.2	2.9%
		保護者	*****	97.2	97.6	98.9	97.6	97.1	99.2	2.0%
ありがとう	子ども	*****	77.4	80.6	82.3	82.6	83.6	87.4	12.8%	
	保護者	*****	83.2	83.7	86.1	86.2	83.9	88.8	6.7%	
選択メニュー	毎日すること	子ども	*****	75.8	75.3	76.1	76.8	76.6	79.5	4.9%
		保護者	*****	81.6	79.2	77.9	78.8	79.7	83.7	2.6%
	毎週すること	子ども	*****	110.1	102.2	102.5	108.7	108.8	120.2	9.2%
		保護者	*****	110.1	104.7	111.1	105.2	112.5	116.8	6.0%
	毎月すること	子ども	*****	164.0	131.6	152.5	153.0	169.3	184.8	12.7%
		保護者	*****	142.9	112.8	138.6	138.6	138.4	171.9	20.3%
評価項目			事前評価(4月)	事後評価(5月)	事後評価(6月)	事後評価(7月)	事後評価(8月)	事後評価(9月)	事後評価(10月)	評価伸び率
基本	早寝		3.11	3.28	3.27	3.32	3.24	3.43	3.43	10.3%
	早起き		3.35	3.66	3.82	3.84	3.72	3.81	3.74	11.6%
	朝ごはん		4.82	4.95	4.95	4.97	4.96	4.97	4.94	2.4%
	おはよう		4.63	4.79	4.83	4.82	4.81	4.85	4.91	6.1%
	おやすみ		4.70	4.85	4.87	4.84	4.89	4.88	4.89	4.2%
	ありがとう		3.94	4.27	4.25	4.31	4.40	4.34	4.46	13.1%
	選択	毎日すること		3.54	4.09	4.02	4.03	4.00	4.14	4.11
毎週すること		3.14	3.90	3.84	3.78	3.78	3.87	3.92	24.8%	
毎月すること		3.08	4.03	3.93	3.91	4.14	3.94	4.11	33.5%	
家庭教育力	接する力		3.35	3.76	3.72	3.78	3.81	3.82	3.94	17.5%
	しつける力		3.24	3.57	3.54	3.59	3.67	3.61	3.72	14.8%
	価値観を育てる力		3.17	3.42	3.29	3.45	3.54	3.52	3.51	10.8%
	自己研鑽力		3.05	3.25	3.16	3.28	3.33	3.36	3.44	12.7%

子育てアップチャレンジプラン全校 集計表

		全校平均	春日小	春日北小	春日東小	春日原小	春日西小	須玖小	春日南小	大谷小	天神山小	春日野小	日の出小	白水小
実践シート	実践率													
	早寝	67.0%	63.8%	42.1%	77.2%	65.0%	60.6%	60.5%	73.9%	59.4%	73.6%	68.5%	71.0%	71.2%
	早起き	79.9%	80.3%	72.1%	85.2%	82.4%	76.5%	75.4%	84.5%	75.7%	85.2%	80.3%	82.4%	81.0%
	朝ごはん	97.9%	98.9%	97.2%	97.4%	95.7%	97.3%	97.4%	97.9%	97.8%	98.9%	97.9%	98.7%	97.8%
	おはよう	96.8%	98.6%	97.0%	96.4%	99.6%	98.8%	95.7%	90.5%	94.3%	96.9%	97.7%	98.2%	96.9%
	おやすみ	96.9%	99.5%	98.5%	94.8%	99.4%	99.0%	94.2%	97.5%	97.3%	96.7%	97.8%	97.2%	96.1%
	ありがとう	82.9%	89.3%	80.6%	75.9%	96.2%	92.5%	77.0%	78.8%	81.0%	87.5%	85.6%	85.5%	80.0%
	児童毎日	76.3%	72.5%	61.3%	72.3%	98.8%	75.8%	70.3%	81.1%	72.5%	76.9%	77.2%	77.9%	80.8%
	毎週	107.7%	78.0%	102.1%	89.8%	92.9%	114.5%	91.6%	80.5%	112.7%	131.8%	112.7%	104.2%	119.4%
	毎月	155.1%	90.3%	127.9%	211.3%	151.0%	105.8%	133.0%	121.6%	242.2%	250.5%	157.8%	163.1%	140.7%
	保護者毎日	80.2%	83.7%	72.5%	71.8%	88.8%	80.8%	78.7%	84.1%	74.7%	88.2%	81.1%	83.3%	79.8%
	毎週	109.1%	85.2%	112.7%	101.5%	104.3%	119.0%	94.0%	102.2%	116.7%	116.0%	110.5%	106.0%	115.7%
	毎月	134.0%	116.9%	135.3%	229.0%	121.4%	106.9%	148.4%	125.3%	138.3%	193.2%	129.5%	113.4%	120.7%
評価シート	平均評定													
	早寝事前	3.16	2.50	2.43	4.31	2.35	3.12	3.12	3.50	3.00	3.26	3.35	2.94	3.22
	事後	3.31	3.09	2.10	3.97	2.32	2.97	2.90	3.73	3.16	3.35	3.52	3.41	3.47
	早起き事前	3.41	3.85	3.48	3.50	3.53	3.51	3.01	3.80	3.34	3.56	3.57	3.22	3.43
	事後	3.75	4.03	3.00	4.34	4.00	3.84	3.18	4.29	3.63	3.79	3.85	3.68	3.84
	朝ごはん事前	4.84	4.77	4.96	4.95	5.00	4.86	4.66	4.95	4.87	4.84	4.90	4.81	4.84
	事後	4.95	4.97	5.00	5.00	5.00	4.89	4.95	5.00	4.97	4.98	4.97	4.89	4.95
	おはよう事前	4.68	4.50	4.85	4.84	4.94	4.84	4.70	4.23	4.48	4.72	4.87	4.74	4.61
	事後	4.82	4.94	4.94	4.95	5.00	4.92	4.70	4.56	4.61	4.74	4.90	4.93	4.84
	おやすみ事前	4.73	4.58	4.85	4.84	4.94	4.90	4.45	4.80	4.78	4.67	4.85	4.74	4.67
	事後	4.85	4.97	4.91	4.89	5.00	4.92	4.64	4.85	4.84	4.77	4.89	4.92	4.83
	ありがとう事前	4.02	3.77	4.04	3.84	4.71	4.30	3.85	3.88	3.88	4.51	4.14	4.08	3.94
	事後	4.14	4.41	3.97	4.16	4.95	4.75	4.04	4.13	4.20	4.44	4.31	4.39	4.16
	毎日事前	3.53	2.60	3.27	3.81	3.88	3.55	3.43	3.02	3.63	3.51	3.64	3.50	3.64
	事後	4.09	3.89	3.73	4.24	4.18	4.18	3.84	4.20	3.94	3.86	4.04	4.28	4.25
	毎週事前	3.14	2.81	3.09	3.28	3.68	3.09	3.07	2.51	2.83	3.14	3.51	3.17	3.19
	事後	3.90	3.73	3.59	4.05	4.14	3.69	3.95	3.47	3.58	3.71	4.07	4.06	4.09
	毎月事前	3.02	3.05	2.22	2.82	4.31	2.92	3.00	2.80	2.79	2.81	3.33	2.88	3.15
	事後	4.03	4.10	2.84	4.33	4.55	3.79	4.14	4.01	3.69	3.69	4.12	4.21	4.16
	接する事前	3.43	3.40	3.27	3.31	3.13	3.62	3.61	3.24	3.62	3.18	3.64	3.36	3.29
事後	3.76	3.68	3.30	3.78	3.89	3.72	3.92	3.78	3.80	3.68	3.97	3.71	3.65	
しつけ事前	3.28	2.92	3.18	3.33	3.44	3.48	3.37	3.46	3.29	3.26	3.26	3.28	3.21	
事後	3.57	3.65	3.30	3.53	3.68	3.57	3.63	3.76	3.54	3.80	3.57	3.50	3.57	
価値観事前	3.17	3.24	3.05	3.08	3.44	3.24	3.39	3.08	3.23	2.97	3.27	2.98	3.15	
事後	3.42	3.52	2.93	3.42	3.37	3.40	3.55	3.24	3.56	3.58	3.48	3.20	3.45	
自己研鑽事前	3.06	3.16	2.86	3.14	2.94	2.92	3.41	2.97	3.02	2.71	3.23	2.96	3.04	
事後	3.25	3.10	2.73	3.33	3.32	3.24	3.45	3.04	3.27	3.38	3.29	3.26	3.22	

子育てアップチャレンジメニュー (子ども用)

1 毎日すること

- (1) 知育 (ちいく)
 - ・ 予習・復習 (よしゅう・ふくしゅう) をしよう。
 - ・ 宿題 (しゅくだい) をしてから、遊ぼう。
 - ・ その日に習った漢字をノートに書き出そう。
 - ・ その日に習った計算の練習をしよう。
 - ・ 本を読む時間を取ろう。
 - ・ 一日の出来事 (できごと) を家族に話そう。
 - ・ 自分の気持ちをはっきり伝えよう。
 - ・ 先生の話をよく聴こう (きこう)。
 - ・ 人の話をきちんと聴こう (きこう)。
 - ・ 粘り強く (ねばりづよく)、決めたことはやり抜こう。

- (2) 徳育 (とくいく)
 - ・ 友達に親切 (しんせつ) にしよう。
 - ・ 友達の相談 (そうだん) に乗ろう。
 - ・ 1日の行動を反省 (はんせい) しよう。
 - ・ 弱いものいじめはしない。
 - ・ いじめを見たら注意しよう。
 - ・ 当番を決めて、家の仕事をしよう。
 - ・ 地域 (ちいき) の人にあいさつしよう。
 - ・ 相手にあった言葉 (ことば) づかいをしよう。(敬語) (けいご)
 - ・ うそはつかないようにしよう。
 - ・ 約束 (やくそく) を守ろう。
 - ・ ゴミを道路 (どうろ) に捨てません。
 - ・ 公共物 (こうきょうぶつ) に落書き (らくがき) をしない。
 - ・ 掃除当番 (そうじとうばん) をなまけない。
 - ・ 風呂 (ふろ) そうじをしよう。
 - ・ 朝の新聞 (しんぶん) とりをしよう。
 - ・ 餌 (えさ) やりなど、動物の世話 (せわ) をしよう。

- (3) 体育・食育・健康 (たいいく・しょくいく・けんこう)
 - ・ 体操 (たいそう)、ストレッチをしよう。(5分間)
 - ・ 自分で食べた食器 (しょつき) をかたづけよう。
 - ・ 食事の前に手を洗おう。

子育てアップチャレンジメニュー (子ども用)

1 毎日すること

- (3) 体育・食育・健康 (つづき)
- ・ 食事の前に間食 (かんしょく) をしない。
 - ・ 朝食 (ちょうしょく) はご飯とみそ汁を食べよう。
 - ・ 好き嫌い (すききらい) なく食べよう。
 - ・ 食材 (しょくざい) に感謝 (かんしゃ) して食べよう。
 - ・ 30回ぐらいかんで食べよう。
 - ・ 食器運び (しょっきはこび) をしよう。
 - ・ ご飯炊き (ごはんたき) をしよう。
 - ・ 食事の時にテーブル拭き (ふき) をしよう。
 - ・ 家族 (かぞく) にお茶をいれよう。
 - ・ 給食を楽しんで食べよう。
- (4) 生活習慣・その他 (せいかつしゅうかん・そのた)
- ・ 自分でできることは、自分でしよう。
 - ・ 学校の明日の用意を自分でしよう。
 - ・ 規則正しい (きそくただしい) 生活をしよう。
 - ・ (朝、夜の) 歯磨き (はみがき) をしよう。
 - ・ 毎朝、顔を洗おう。
 - ・ 学校から帰ったら、うがい、手洗いをしよう。
 - ・ 家事手伝い (かじてつだい) をしよう。
 - ・ 毎日お風呂 (ふろ) に入ろう。
 - ・ 脱いだものは、洗濯 (せんたく) かごに入れよう。
 - ・ 布団 (ふとん) を敷こう。
 - ・ 布団 (ふとん) をあげよう。
 - ・ 身の回りの片づけをしよう。
 - ・ 机の整理・整頓 (せいり・せいとん) をしよう。
 - ・ (自分の) 洗濯物 (せんたくもの) をたたもう。
 - ・ テレビを見る時間を守ろう。(ルールは家庭で決める。)
 - ・ ゲームの時間を守ろう。(ルールは家庭で決める。)
 - ・ 近所の人にあいさつしよう。
 - ・ 「ありがとう」、「ごめんなさい」が言えるようにしよう。
 - ・ こづかい帳を付けよう。
 - ・ 食事の時はテレビを消そう。

子育てアップチャレンジメニュー (子ども用)

2 毎週すること

- (1) 知育 (ちいく)
 - ・ 1冊の本を読もう。
 - ・ 諺 (ことわざ) を覚えよう。
 - ・ その週に習ったことを振り返ろう。
 - ・ 工夫して、遊び道具 (あそびどうぐ) を作ろう。
 - ・ 家族で簡単なルールของเกมをしよう。

- (2) 徳育 (とくいく)
 - ・ 家の周り (まわり) のゴミを拾う。
 - ・ ゴミ出しをしよう。
 - ・ ほしいものがあっても我慢 (がまん) しよう。
 - ・ おつかいに行こう。
 - ・ (家族の) 肩もみをしよう。
 - ・ 花や野菜 (やさい) を植えて、育ててみよう。

- (3) 体育・食育・健康 (たいいく・しょくいく・けんこう)
 - ・ 戸外遊び (こがいあそび) をしよう。
 - ・ 朝ごはんを自分で作ってみよう。
 - ・ 昼の弁当 (べんとう) を作ろう。
 - ・ 夕食の献立 (こんだて) を考えてみよう。
 - ・ 野菜 (やさい) の皮むきに挑戦 (ちょうせん) しよう。
 - ・ 家族全員で食事をしよう。

- (4) 生活習慣・その他 (せいかつしゅうかん・そのた)
 - ・ テレビを点けない (見ない) 日を実施 (じっし) しよう。
 - ・ 自分の部屋 (へや) を掃除 (そうじ) しよう。
 - ・ アイロンかけに挑戦 (ちょうせん) しよう。
 - ・ 上靴・運動靴 (うわぐつ・うんどうぐつ) を自分で洗おう。
 - ・ トイレ掃除 (そうじ) をしよう。

子育てアップチャレンジメニュー (子ども用)

3 毎月すること

- (1) 知育 (ちいく)
 - ・ 今月の目標 (もくひょう・めあて) を立てよう。
 - ・ 自然観察 (しぜんかんさつ) をして、季節 (きせつ) を感じよう。
 - ・ 星空を観察 (かんさつ) しよう。
 - ・ 公園の植物 (こうえんのしょくぶつ) を観察しよう。
 - ・ 家族で映画 (えいが) やビデオを観て感想 (かんそう) を話し合おう。

- (2) 徳育 (とくいく)
 - ・ 地域の高齢者 (ちいきのこうれいしゃ) と遊ぼう。
 - ・ 地域活動 (ちいきかつどう) に参加 (さんか) しよう。
 - ・ ボランティア活動 (かつどう) をしよう。

- (3) 体育・食育・健康 (たいいく・しょくいく・けんこう)
 - ・ 家族で体力測定 (たいりょくそくてい) をしよう。(垂直跳び、立ち幅跳び、反復横跳びなど)
 - ・ 家族でスポーツ観戦 (かんせん) をしよう。
 - ・ 家族で散歩 (さんぽ) しよう。
 - ・ 花や野菜 (やさい) を植えて、育ててみよう。

- (4) 生活習慣・その他 (せいかつしゅうかん・そのた)
 - ・ 1箇月 (1かげつ) の反省 (はんせい) をしよう。
 - ・ 家族会議 (かぞくかいぎ) を定例化 (ていれいか) しよう。

子育てアップチャレンジメニュー（保護者用）

1 親の子どもに接する力

- (1) 毎日すること
 - ・ (絵) 本の読み聞かせをする。
 - ・ 宿題のチェックをする。
 - ・ 学校の明日の用意を、チェックする。
 - ・ 学校からの通知に目を通す。
 - ・ 子どもの話を、5分以上聴く。
 - ・ (子どもの) 一日の出来事を聴こう。
 - ・ 親子の連絡帳（交換日記）をつけよう。
 - ・ 1日1回以上ほめる。
 - ・ (子どもと) 体操、ストレッチをする。
 - ・ 夕食の材料の数を数えさせる。
 - ・ 献立の話をして、楽しく食事する。
 - ・ 好き嫌いを減らすように働きかける。
- (2) 毎週すること
 - ・ 1冊の本を読み、子どもに話す。
 - ・ 1週間の時間割に目を通す。
 - ・ (子どもといっしょに) 戸外遊びをする。
 - ・ (子どもといっしょに) 朝食を作る。
 - ・ (子どもといっしょに) 夕食を作る。
 - ・ (子どもといっしょに) 弁当を作る。
 - ・ 保護者同伴が必要な体験をさせる。(アイロンかけ、包丁使いなど)
 - ・ 親子読書の日を決めて実施する。
- (3) 毎月すること
 - ・ 季節の催しを話し伝え、実施する。
 - ・ 家族で体力測定をする。(垂直跳び、立ち幅跳び、反復横跳びなど)
 - ・ 家族で散歩、ジョギングをする。
 - ・ 家族で縄跳び大会をする。

2 親の子どもに対するしつけの力

- (1) 毎日すること
 - ・ (子どもの) 友人や行動を把握する。
 - ・ 子どもの役割(当番)の、声かけをする。
 - ・ (子どもと) うがい、手洗いをする。
 - ・ 家庭内での役割を持たせる。= 炊事、洗濯、掃除など。
 - ・ 家事手伝いを呼びかける。

子育てアップチャレンジメニュー（保護者用）

- ・ 食事のマナーを教える。（箸の持ち方など）
 - ・ テレビ、ゲーム時間のルールを守らせる。
 - ・ （子どもが）朝、自分で起きられるように習慣付ける。
 - ・ 遊んだあとの片付けを自分でさせる。
 - ・ きちんと叱る。
- (2) 毎週すること
- ・ テレビを点けない（見ない）日を実施する。
- (3) 毎月すること
- ・ 家族の決まり（ルール、約束ごと）を作る。

3 親による子どもの価値観を育てる力

- (1) 毎日すること
- ・ 善悪の判断を教える。
 - ・ （子どもが）きちんとあいさつできるように、注意する。
 - ・ 食べ物（の命）に対する感謝の気持ちを育てる。
- (2) 毎週すること
- ・ 家族全員で食事する。
 - ・ （子どもに）諺を教える。（今週のことば。）
 - ・ （子どもに）1週間の反省をさせ、アドバイスをする。
- (3) 毎月すること
- ・ 祖父母の話など、自分のルーツを話して聞かせる。

4 親としての自己研鑽力

- (1) 毎日すること
- ・ 1日の行動を反省する。
 - ・ 朝ごはんを作る。
 - ・ 朝ごはんは、「ご飯とみそ汁」の回数を増やす。
- (2) 毎週すること
- ・ ボランティア活動をする。
- (3) 毎月すること
- ・ 家族会議を定例化する。
 - ・ 学校行事に積極的に参加する。
 - ・ 今月の目標（めあて）を立てる。
 - ・ 前月の反省をする。
 - ・ 自然観察をして、季節を感じる。
 - ・ 地域活動に参加する。

「子育てアップ」チャレンジプラン 評価シート(5月実施分)

区分	実践前(現状)の状況【事前評価】				【事後評価】		実践後の変化(成果・課題)			
	実践項目	実践内容	到達度	総合評価	到達度	総合評価	変化値(事後-事前)	変化の内容		
* 到達度 : よくできた(80%以上)=5 ほとんどできた(60%以上)=4 できた(40%以上)=3 もうすこし(20%以上)=2 がんばろう(20%未満)=1										
基本メニュー	基本的生活習慣	早寝	夜9時までに寝る							
		早起き	朝7時に自分で起きる							
		朝ごはん	朝ごはんを食べる							
		あいさつ	おはよう							
おやすみ										
ありがとう										
チャレンジメニュー	毎日する									
	毎週する									
	毎月する									
家庭教育力	子どもに接する力									
	子どもに対するしつけの力									
	子どもの価値観を育てる力									
	親としての自己研鑽力									
実践後の感想	子どもは								
	家族は								
	家庭は								